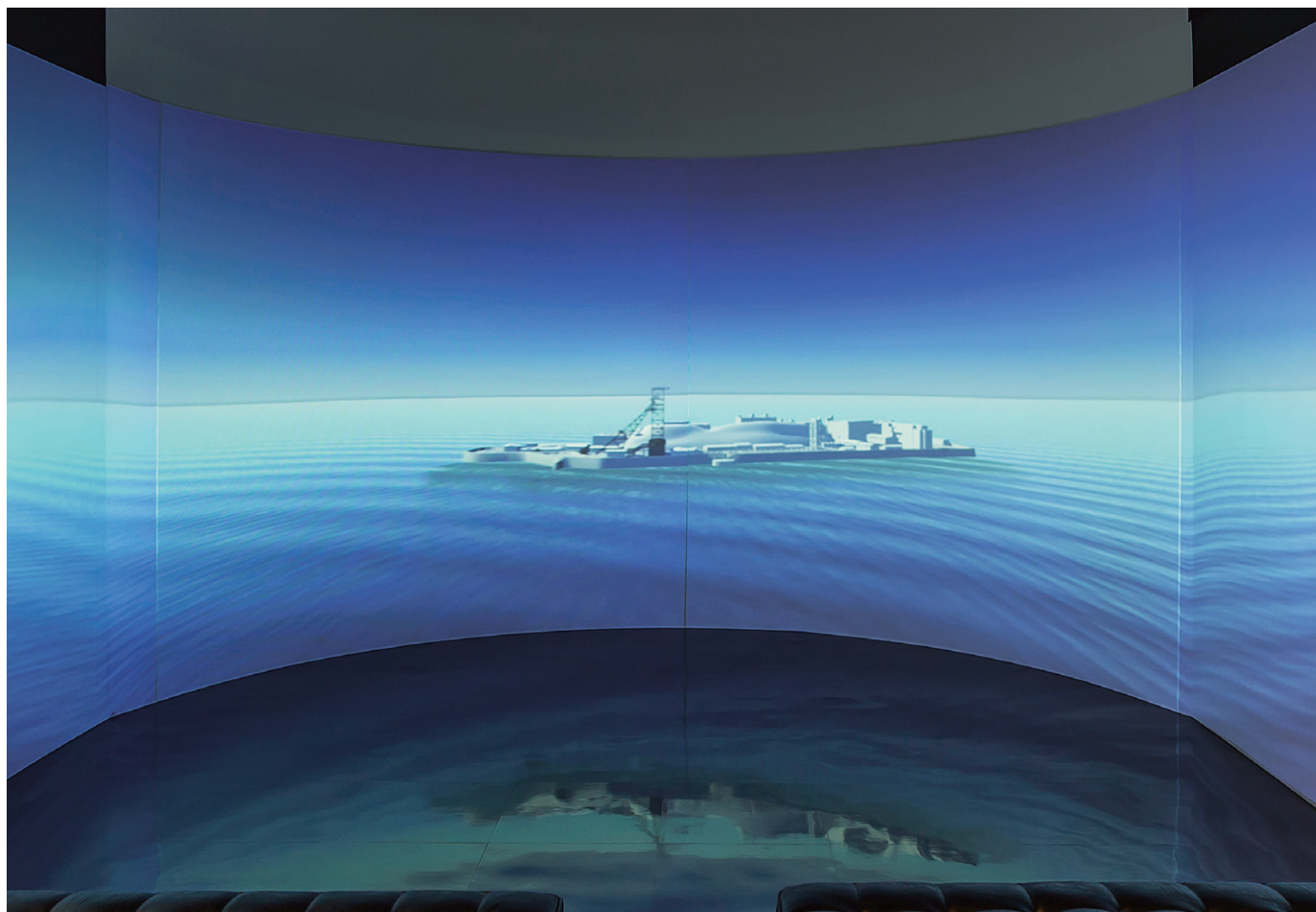


軍艦島の歴史と文化を伝えるミュージアムに 当社スペースプレーヤーが採用されました。

長崎県長崎市 軍艦島デジタルミュージアム 様



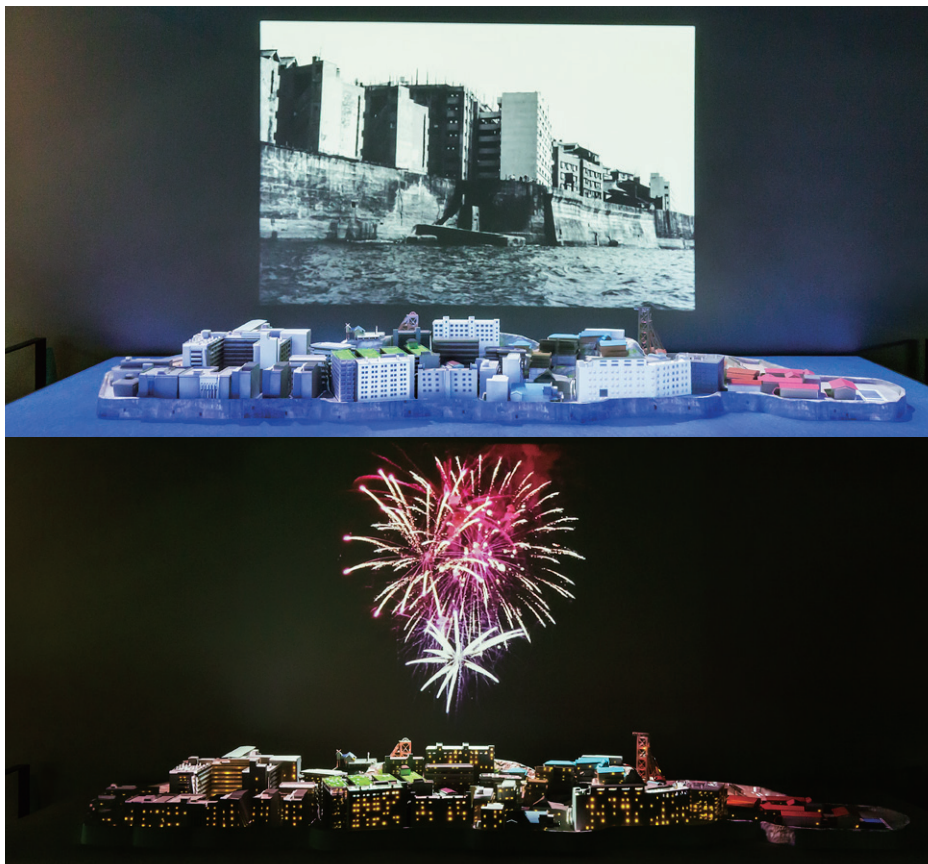
栄華を極めた軍艦島の人と暮らしを スペースプレーヤーが生き活きと再現しています。

海底炭鉱の島として、明治・大正・昭和の3つの時代のエネルギー供給基地となっていた軍艦島。最盛期には5,200人が暮らし、その後、主要エネルギーの石油移行により1974年に閉山され、この島は無人となりました。その軍艦島が2015年7月、世界文化遺産として正式登録。歴史的、文化的に高い価値を持つこの島の空気感を体感できる施設として「軍艦島デジタルミュージアム」が誕生しました。

ミュージアム運営母体の株式会社ユニバーサルワーカーズ・軍艦島コンシェルジュ様の上陸ツアーも人気が高く、高速船マーキュリーも連日満席となっています。ツアーに参加できない方にも当時の炭鉱採掘の様子や島民の暮らしを伝えたいという思いから、膨大な写真資料や映像資料をもとに、活力に満ちた当時の様子を再現。そのデジタルシステムに当社のスペースプレーヤーが採用されました。

軍艦島デジタルミュージアム





軍艦島の模型への3Dプロジェクトマッピングはスペースプレーヤー3台を活用し、精度の高い映像設計に対応。当時の島民生活の映像と連動したドラマチックな演出となっています。



Space Player NTN91000B ○ オープン価格

- 仕様／●光源：レーザーダイオード
 ●光出力：1000 lm
 ●入力電圧：AC100V 50Hz/60Hz(100V配線ダクト用)
 ●寿命：20000時間(初期の50%の明るさになるまで)
 ●消費電力：125W
 ●【灯具】プラスチック(ブラックつや消し仕上)
 ●ワイヤレスリモコン付 ●推奨映像解像度：1,280×800

在庫区分：○…工場在庫品



エントランスの施設看板もスペースプレーヤーで演出。ロゴの文字色が変化し、印象度を高めています。

複雑な構造の展示什器への投影でも 映像の視認性が良いと高評価。

ミュージアムの3階には軍艦島模型を展示。複雑な構造の模型に3カ所のスペースプレーヤーから映像を投影する3Dプロジェクションマッピングが行われています。精密さが求められるため、事前シミュレーションを重ね、現場でも微妙な調整を実施。スペースプレーヤーは配線ダクト式で位置決めが自由で、しかも首ふりが容易なので現場調整がしやすいと喜ばれています。



多面体への投影は3台のスペースプレーヤーで行い、島民の表情も鮮明な映像に。

映像の明るさ、再現性、コンパクトな形状が スペースプレーヤーご採用の要因に。

他にも、軍艦島デジタルミュージアム様では、エントランスの看板、映像による坑道体験、島民の表情にスポットを当てた多面体展示など、4カ所に計12台のスペースプレーヤーを導入。レーザー光の照射による映像は明るく、再現性も期待通りと評価されています。

また建物の天井が低いため、圧迫感のないコンパクトな形状であることもご採用の決め手に。器具の存在が目立たず、来場者の視線を映像に集中できると好評です。

当時の軍艦島の空気感を表現した映像は下記のURLからご覧いただけます。
<http://gdm.nagasaki.jp/>

省エネ・省メンテナンスで 長い投影時間のコスト負担を軽減。

軍艦島デジタルミュージアム様の営業時間は午前9時から午後6時まで。開館・閉館準備の時間を入れると10時間近く映像を流しています。スペースプレーヤーは省エネ性が高く、長時間の投影でも電力使用量を抑制。しかも20,000時間という長寿命の光源なので、他のプロジェクターのように頻繁なランプ交換が不要という点も高く評価されています。

3Dマッピングの現場でスペースプレーヤーを見る機会があり、スペック以上に色がきれいで、しかもコンパクトな設計で、これは使えるという感触を得ていました。当時の軍艦島をアーティストックなアプローチで表現したいという施主様の思いをスペースプレーヤーで実現できたと満足しています。



軍艦島デジタルミュージアム
久遠 裕子 様



株式会社Zero-Ten
森 直樹 様

納入商品

- スペースプレーヤー×12台